

昭和13年12月1日（木）

九時十三分出局。午前中晴れ。夜来風強く、朝、冷氣甚だし。愛子六時過ぎ起床。余例により上厠後少時俟つ。昨日に引続き消耗品の調査を行ふ。午後曇り。第五回貯蓄債券慰労金、60銭交付あり。愛国切手在高報告方、電照4銭36、5銭20、6銭40、葉書5報告。電燈線切れ点火せず。中学五年在生徒に永江氏依頼、修繕したる手際よし。独乙ゴンドル飛行機、二十八日午後十一時過ぎ出発、昨夜十時過ぎ立川到着。伯林～東京一万四千八百八十キロ。南方空のコースを飛行し、四十六時間二十分五十二秒の国際記録を造る。三千メートル以上の高空を飛翔しつづけた。高所は空気も稀薄、抵抗少なし。風も北半球は常に西風、南半球は常に東風で、飛ぶに楽である。只、地上百メートル昇る毎に、0、6度づつ温度下降。故に地上で十度の時は、六千メートルの上空では零下二十六度で、手足も凍えてしまいます。軍用機の操縦者は電熱被服を着て、酸素吸入器を持込む。エンジンも空気が稀薄になると、ガソリンの爆発が悪くなるので、スーパーチャージャー（与圧機）でピストンの内へ圧力のある空気を送り、高空でも都合良く力が出るようにし、油も別に高空用を積みます。

昭和13年12月2日（金）

曇り。永江氏切手請求。巖は本日迄は聊か暇があるが、明日以降、余暇なしと云ふに付き、此日葉書二百枚請求手配。巖に運搬せしめたり。満州国便覧訂正、区画便覧附録も訂正を了せり。中尾氏来翰。帰る頃、晴天。此日風呂沸く、両児を入れたり。先日の失敗に鑑み注意したる為め、事故発生を見ざりし。九時半、更に温まりて寝

るべく入浴せり。四十分寢床。

昭和13年12月3日（土）

晴れ。守谷氏より、復興貯蓄債券10円当たり籤支払いに対する処理方聞かれ、本朝出勤時中津局行。竹折氏に面接。主事拝命に祝詞を述べ、取扱方疑義を質す。資金請求に永江氏行く。昨夜、牡丹江八日市一弘氏来たり、果物籠土産に持参したる趣を聞く。午後一時二十分出発、是永氏果物籠を持ち停車場に来る。是れは皆で分配し局員を犒（ねぎら）ふ積もりなりしも、遂に家苞（いへづと）に持来る。五時飯宅。柳原先生風邪。此日の集会は、臨時休むとの挨拶状来たり居る。人間道及びまこと誌、御送あり。

昭和13年12月4日（日）

快晴、珍しき暖かさなり。久子休み、友達二人来たり。油山に遊びに行ける由、五時頃飯る。玉屋より海苔巻き鮓60銭求め来る。此夜、秀夫来宅。二時間計り遊びて十時過ぎ飯れり。夕方より曇天。

昭和13年12月5日（月）

非常に温度上昇したるか、夜半汗ばみぬ。三時頃より降雨、夜明け後歇む。風強く驟雨気味あり。時々陽照る。松木君より通信あり。支那の祝日雑誌の幾片かを同封越せり。返信認め、半途にして持越す。此夜、月明朗。空雲翳りなし。独乙コンドル機、明早朝立川出発、一路帰還の途に就く由。

昭和13年12月6日（火）

此の朝五時三十五分、コンドル機立川発のニュースあり。午後髯剃り、真空缶を持ち、松下電気に返すべく出発。松木氏への手紙も序でに投函す。飯途、卵油二円（三週間分）求めて柳町市場に立寄り、ピース百匁20銭を求め、榊2銭にて購ひ、四時前五分飯宅。ニュースの間に合わず。此日快晴、敷き布団を乾す。亦下帯洗い欄干に掛け置きたるに乾燥せり。夜は多少曇る。冷氣強し。特に九時より市丸の小唄にラジオの音声を大きくし、下に届く底にしたる為、九時四十分終局まで起きて居り、体冷ゆ。久子、屑ビス20銭分百匁持参。外に森永仁丹、余に呉れたり。卵油にて顔の腫疹に附けたり。澄子も50銭小瓶求め来たり居りたるを聞き、効果如何を質したるも、熱心に附けぬらしく判明せぬと云ふ。

昭和13年12月7日（水）

曇り。久子遅く出勤。明夜七時のニュースに、コンドル機マニラ附近海上に不時着。乗組員は無事、機体は沈没。但し干潮を利し引揚げ可能の旨、号外も発行さる。道子等外出、思い付き夫人の映画を見て来るとて出掛く。三時過ぎ斎藤（突き当たりの家）女房来たり。道子を貰ひたき人が見えて、青年と待って居ると云ふ。少時して道子等飯宅。再び斎藤氏夫人来宅、二階にて色々尋す。余は、其の母子を招じ話すこともよいと思ふと述べ、母子を請ず。前日隣家の娘のことを尋ぬる振りして、道子を見に来たりし人なり。道子ココア持来る。二十分計りにて帰る。青年は30才、本屋を営み居ると云ふ。甘藷求め来たり食す。午後より快晴となる、夜は可なり冷ゆ。子猫死ぬかも知れぬとて、鶏肉を求め食わす。足痿（な）

えて歩行満足ならざる如し。二郎及び大竹駒子に返事出す。大竹の分は先日、柿送り越しあり。潰れ腐れ満足のものなしとあり。来て見れば蔭も形もなしと雖も、棄てたものでない限り、幾らか皆が食べて呉れたことを思ふと、感激に堪えずと返事せり。

昭和13年12月8日（木）

朝多少曇り、次第に快晴。風は相等強し。松永義男氏に返事。永末琢美氏の当市外中学校に就職したる通知、中津にて接受したるが、夫れの返事半月遅れ居るを発見、此日認め一緒に発送す。此の日も外出せず。甘藷今朝にて没有。午後九時四十分寢床。

昭和13年12月9日（金）

午後より快晴。久子遅出。税務署より年金に対する申告方申越しあり。記番号を通知すること、元金受取人氏名等も記載すること。此日発送見合わす。

昭和13年12月10日（土）

午前曇り、冷氣強し。北京に雪降り、零下十余度と四時のニュース。此日午後零時三十分、松屋に行き、羽子板38、羽根8、及び電気炬燵4、50にて求め、販宅。東京より電報あり。「ミネ11ヒ セ10、18ハカタチャクタノム」とあり。少々当惑、明後日準備もあると云ふ。午後三時頃より快晴となる。税務署に申告書持参せり。午後九時寢床。

昭和13年12月11日（日）

朝の間曇り。昨夜澄子に理髪して貰ふ。今朝九時髯剃る。

澄、鮭買いに行く。座敷片付け、火鉢出し、久子は藁灰作る。余は我家に泊まるは愚か、立寄ることもせぬだろうと注意す。九時四十分仕度して出発、道子も同伴す。道に行く車が小路を塞ぎ居る為、裏道を伝ひバスに乗る。十時駅着、十五分普通列車到着。二十分急行着。後の汽車に峯氏及び母堂と来らる。挨拶して九軌食堂にて朝食を摂らる。荷物は知人が労働者体の人物を遣わし、之に持たせて食堂内に持込む。余は爰に別れ、何れ販国の際に一泊を懇請。徒歩、川端町より玉屋及び松屋に至り、セルロイド玩具10、10、5、5及び齒磨き粉15（クラブ）を求め、市場を通過して販る。快晴、暖かし。四時頃より再び曇る。後より中尾氏の手紙にて、迎えに見えた峯氏親戚と云ふ人物こそ、同氏令弟にて、目下島井印刷所に職工として入り込んでいる人らし。道理で職工服を纏ふて居られたと思ひぬ。

昭和13年12月12日（月）

曇り時々晴れ、暖かし。昨夜御飯が足らぬ、炊くのは厄介らしきを推知し、甘藷を求めしめ、700匁10銭にて九時頃求め来たり。それを朝食代用に食し、七時二十分頃出発す。局員への土産の森永ビスケット三包みを、曩に永江氏から借用の風呂敷に包み、電気炬燵及び巖への土産品を各風呂敷に収め徒歩、八時二十分前に達す。新聞4銭にて購ひ車中に読む。十一時三十五分安着。発送文書は殆どなし。公報局報により訂正もの可なり多し。巖来たりパンを余に薦む。家に持販らしむ。和博蛔虫のこと、愛子弱きこと等苦説く。土産品及び電気炬燵持戻らしむ。五時松本、油井両女史臨局、御礼に来る。両女史一緒になる機会に恵まれざりし由なり。堅いのに感心

せり。此の夜より電気炬燵す。暖房の修繕も出来たるよ
うなるも、迷惑をかけぬ点に於いて炬燵の方勝れり。

昭和13年12月13日（火）

雨、長靴雨傘携行。出発時歇み居たり。炬燵弱の方にて
充分、夜半調節す。朝暖かく気持良し。朝吹氏八時四十
分と相前後して出発。永江氏資金請求遅れて、銀行より
取出し得ず。四時まで待ち残高を持来す積もりの処、是
れ亦二百円足らず。加うるに硬貨多く、断念して四時三
十分飯局。払渡し上、大いに支障を来せる如し。慰労手
当80円来たり、36、23、21と分配発令す。

昭和13年12月14日（水）

快晴。曩に藤井島子に久子より髪飾り寄贈の目的にて、
岩田屋にて求めし造花スミレに、余の水晶指輪を入れ、
此日小包にて発送す。是永氏に梱包手伝ふて貰ふ。愛子
夕飯軽量、巖心配し、久子に手伝い貰いたしと提唱す。
昨夜赤坊定量の乳を飲乾し、腹を減らして荐（しき）り
に泣く。多分安眠し得ざりしものの如し。余、亦其の影
響を蒙る。

昭和13年12月15日（木）

夜半風の為め、水道の側の扉、ばたばた叩き喧噪す。
赤坊良く寝るも、余屢々安眠を妨げらる。朝寒し。巖電
気炬燵持出し炬燵を造る。慰労金、余の分三十九円来る。
風呂沸く、赤坊を入れたり。九時四十分再び温まりて寝
る。此日より経済強調戦、此日より一週間継続。貯金、
保険、年金受入事務を午後六時まで延伸、然し取扱なし。

昭和13年12月16日（金）

快晴、風あり、冷ゆ。巖に錦海老を購わしむ。十時頃、瀬口より届け呉れたり。見本四五尾別に袋に入れ試食申出たり。其の儘持販り愛子に渡す、1, 70銭。郵14銭、大竹駒子宛小包にて発送す。中尾氏来翰。小包秤量自働式発送の旨、通知来る。午後曇り。断続的に小雨降り道を濡らすも泥濘に至らず歇む。余の販る頃、碧空多し。

昭和13年12月17日（土）

昨夜暖かし。夜半より降雨、黎明に至りて歇む。次第に晴天となる。夜半下痢気味、気持ち悪し。昨二円払戻し、巖に錦海老分及び味噌一貫匁50銭を交付す。正午過ぎ、瀬口より味噌届け呉る。零時40分、蒲鉾15銭を三本求め来る。年末賞与金券来たり、国債報労金と共に頒布す。此日公報（十六日告示3913号）中津栄町局電信電話開始發令、十二時十五分より取扱ふ。一時二十分出発、味噌及び蒲鉾を抱へ汽車に乗込む。日向の方の座席熱し、それ程快晴にして暖かなり。バスに乗らず五時販宅。峯氏、散に探し廻りし由にて訪ね呉れらし。蜜柑一籠土産に置かれ、其の儘辞去せられたる由。道子より通告あり。夕食甘藷、鯛。髯を剃り、六時三十分集会とあるを七時星野病院に至る。星野先生、柳原先生、桑原氏の三名のみ。福永氏も後より来られ、行事は八時より。十時柳原先生の話あり、十時半閉会。山崎氏床上げ出来ず、会場を辞退されたる由。福永氏脚気にて暫く外出不可能なりし由。十一時販宅、久子と偶然逢ふ。活動でも見て来たりしものと察せらる。

昭和13年12月18日（日）

朝の間快晴。次第に曇り、降雨の向きもありし如し。第三日曜、此の附近商店休業。夜ネーブル買わすべく頼みしも、生憎休業にて求め得ざりし。今日外出せず。久子遅出。

昭和13年12月19日（月）

昨夜林檎一ヶ七銭とか、店売りの品拾ヶ求め来る。此の朝より頂く。曇天、雨模様の儘過ぐ。夕方キンコウジ10銭にて拾一ヶ、澄子に買わす。永江氏に葉書。明日中津局集会に、余の代理として出席依頼す。午後中尾氏に手紙認む。甘藷、此の朝にて没有。

昭和13年12月20日（火）

曇天なるも時に陽光を拝す。終日温暖なり、風殆どなし。久子午後五時出の由。久子手当二十五円計り貰ひ、道澄に各五円遣りし如し。本日余より各二十円、及び久子へ十円分は持合わせなき為、後廻しとす。午後天気は幾らか霽れ気味なり。ワイシャツ洗濯して貰ふ。此日年金受領証、久子に郵便局より貰ふて来さす。併し受取に行かざりし。甘藷、此の夜より再び有り附く。四時半、久子既に出発す。五時夕食、八時五十分頃寢床。夕刊も見ざりし。

昭和13年12月21日（水）

朝来曇り。四時頃、降雨の模様。久子早出。六時四十分、余朝食。中津より、愛子風邪寝込む、補助して呉れと葉書寄越す。色々協議したると見え、受取ってから少時して余の許に来たり、澄子が明日行くことになれり。今

日松屋より土産菓子求め、洗濯もして準備したる如し。午後四時頃より細雨。午前十一時、妙子歳暮に子供二人連れて来る。近来主人帰宅遅しと、六時迄の延伸は今日迄と覚えたり。うどん、飯代わりに取寄せたるらし。買物には道子行き、妙子が来たりしときは、道子未だ販らず。余暫く対手になり咄す。一時頃引揚ぐ。

昭和13年12月22日（木）

曇り。夜来降雨、朝黎明と共に歇む。夕方より全く碧空を見る。此日立冬。昼九時四十五分、最短時。北極圏に昼なく南極圏に夜なし。野口留蔵氏より来翰、独りで遣れぬと云ふ。時代が違ふと申遣り、同時に旅費拾五円送付。年内出発せよと上田谷地高羽富次氏にも、其の旨、通知懇示方依頼す。澄子午前十一時中津行き。夕食より道子炊事を掌（つかさど）る。夜は再び曇る。

昭和13年12月23日（金）

曇り後、雨。最初小降りなりしも、夜に及びて可なり強くなる。久子は朝食を廃して出掛く。雨につれ寒さ加わる。昨岡田光邦より葉書に対し返信認む。到着まで殆ど一ヶ月を費やす。昨日より外套持出し、膝掛け代用に供す。其の結果、藁灰補給の為もありて、火鉢の火二日間支えたり。此の日、皇太子様の御誕生日、本年五回目の御年を迎えさせらる。十時寢床。

昭和13年12月24日（土）

曇り、北風強く時々晴れ。午前九時五十分頃、梶沼好子氏来訪、三十分間計り話し茶園谷に行かる。城南線なり、余一丁目近く案内。電車切符10区差上ぐ。市場を覗く、

鯰（ぶり）一尾三四円と云ふが盛んに捌く。驚くに堪えたり。禪洗濯す。道子に年金参円受取貰ふ。駒次に手紙出す。島子より小包受取りし返事来る。岡田光邦に返事発送す。此の日、帝国議会開院す。

昭和13年12月25日（日）

曇り。山崎氏より葉書来。髯剃り、午後一時四十分より出発す。徒歩にて至る、氏の部屋に通る。蒲団を重ねて寝て居らる。風邪引き発熱したりと云ふも、昨今漸く平熱となりたる由。話の筋は桑原氏に拾円、柳原先生に拾円（前回は五円）、星野先生に砂糖十斤御礼すると云ふにあり。余にも異存あるべきに非ず。同氏宅を辞し、市場を一巡し松屋に至り、何も買わずに販る。先刻道子に甘藷を買わせたり。赤色の方を注文せり。本永さん来たり、甘藷蒸し過ぎ焦げ附く。瓶詰め菓子三ヶ持参。玉屋のマークあり。隣家より餅を貰ふ。夜、納豆残り、数日を閲し品、変質の惧れある為、此れを副食物として食ふ。猶書洩らしたるが、山崎氏一昨日千五百円の国債を購入せり。余より買えばよかったと謂はる。猶三百円は何日でも持込まれたいとのこと。午後四時販宅。雨降り出す、大急ぎで飛込む。併し永降りせざりし如し。稍冷えて来る。今朝は久子早出、而して早販り。明朝出発の準備す。糯米貳斗、二十七日搗くことにしたる由。糯米既に届けられあり。今日餅搗きして居る向きあり。北陸線風雪被害多きものの由。

昭和13年12月26日（月）

雨模様、寒し。道子に六時起きて貰ふ。三十分、下に行事にかかる。七時半食事済ます。同四十分、仕度して出

発。昨夜久子、サンタクロース及び少女の中製袋に菓子
を詰め居るを、中津への土産と思料したるに、風呂屋に
年末礼に持参せしなり時に、活動写真の入場券を貰ふ為
とあり。此の夜、足の踵を引きちがいに跛行し来たり風
呂に行きたる如し。さて駅に着きたるに開札し居る。新
聞を求めて入場す。小倉駅に下車すれば、風に伴って、
紛々雪降る。中津にては曇り。巖来局。此日葉書一万持
来らしむ約に依り、蒲鉾七本持参あり。梱包して郵料30
銭にて中尾氏宛発送。巖に蒲鉾屋に2, 10銭、外に試食
料30銭一本を持販らしむ。中尾氏来翰。澄子働き居る。
愛子全癒。和博食傷。二郎より巖に、百円及び手数料送
金し来れる由。

昭和13年12月27日（火）

時々曇り、寒し。塩川野口より電報あり、「30ヒタツ」と
あり。出局の際、はぶ草40銭、ワタシ13銭求む。昨給
料支給、巖にも拾円、局にて渡す。今日保険費の交付あ
り。3, 51銭、余受け、永江氏に3, 00支給す。風呂沸
く、例により赤児を入浴せしむ。存外早く上がる、湯ざ
め注意す。電気炬燵を炬燵に使用。二度入浴。

昭和13年12月28日（水）

風雪、出局時歇む、白皚々（がいがい）。昨年残りの無
煙炭を焚き室内を温む。切手類請求。此日限りにて年内
請求出来ぬ故、葉書を一万請求。巖に葉書にて運搬依
頼す。余帰途に就くまで巖来たらず、販宅すれば行違
いに巖去り居らず。余の通知遅く届きし由。風呂沸かし直
し、寝しなにも入浴す。予め注文の餅五升、此の日持来
たりし由。悦子其の一つを手にし放さず、焼きて与ふ。

幾分食残したる如し。

昭和13年12月29日（木）

昨夜、火鉢残り火を利用、甘藷を燻（くす）べ、本朝其の二つを食す。雪霏々（ひひ）、晴れたり曇りたり。今日無煙炭無し。永江氏余にそれとなく必要を謂ふ。余は大賛成、直に注文せし如し。風呂立返し、此の日にて三晩続く。澄子の所為なり。従来一回も此の種のことなかりし。夕食餅、二杯山盛り食ふ。

昭和13年12月30日（金）

晴れ。無煙炭持込む、此の日より焚く。二銭切手不足。電話照会、庶務にて聴き容れ。永江氏請求に行く。序でに葉書600枚も追加請求す。昨電報塩川より来たり、午後十時東京発とあり。尤も昨日、余より、北陸線雪風汽車発着ダイヤ不順とあり、東京廻りを安全と認め、其の旨電報したる返信と認めらる。此日総保険料53,600（久子80銭一ヶ月分）前納、切手より支出せしむ。此の朝昨夜の残り餅を余のみに振舞ふ。一昨夜は澄子、巖の部屋に、昨夜は再び三疊に寝る。子供が泣きて安眠し得ざりしものの如し。甘藷、今朝も火鉢の残り火利用のものを頂く。此の朝から子供の分も一緒に入れて置き、子供等にも頒与することとせる為め、余頂くに付いても子供に気の毒に思はで済むこととなれり。

昭和13年12月31日（土）

例により甘藷を頂く。快晴。昨夜は風強く中庭の扉を叩く。出局後、朝吹氏より電報持来たらん。それによれば光子より今夜十時立つとあり。一日延期となりし如し。品川駅

より発電。無煙炭焚き、温かにて木炭必要なし。二時巖来たり。道、久に各五円、年玉として余に届け呉れと持参す。中尾氏より小児保険六ヶ月分六円、佐世保の中尾たか氏の息、加入小為替送金あり。更に余、愛子の分、成人1,300終身を契約す。其の為五円払戻す。夜、蕎麦三杯を食ふ。入浴再度。